

木造不動明王立像



〔指定年月日〕平成三年一〇月二八日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕木造不動明王立像
〔点数〕一軀
〔所有者等〕長仙寺
〔所在地等〕高円寺南三―五八―四

木造不動明王立像

本像は、長仙寺の本尊で、像高六四・五cm、面長七・五cm、面幅七cm、肩幅一七cm、腹奥一四cmの寄木造りである。頭の頂きには蓮華をかたどった莎髻をのせ、髪は巻髪、弁髪を左肩の前に垂らしている。面相は丸顔で眉は太く逆立っており、玉眼は、瞳は墨、白眼の部分には金泥をさし、眼光の鋭さを強調している。左右の歯牙は小さくあらわし、それぞれ上下を向いている。

像の彩色は、古色に黒ずんで肉親の色などは明瞭ではないが、下半身にまとった裳裙には、朱の色が鮮やかに残っている。その朱の地に切金風の文様が金泥で描かれている。両足は柄差しで台座に差し込んでいるが、この柄の部分及び台座、光背は後世の作と思われる。胸飾（瓔珞）、法剣及び絹索は制作当初のものと考えられる。

制作の時期はその作柄から区内では数少ない室町時代の作と推定されるが、木の寄せ方、矧ぎ目など構造の細部については確かなことはわからない。昭和二四年（一九四九）、精巧な修復が行われている。

像全体をみると、均整のとれた体つきをし、彫法も洗練され、格調の高い彫像として貴重である。

【文化財所在地】

